

News Letter

2018年

12月

中国四国農政局
山口県拠点

人の繋がりが地域資源！

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン



農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定する、第5回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の審査が平成30年10月に行われ、山口県から、地元産果樹からジャムの製造・販売を通じて島の活力を呼び覚ます、株式会社瀬戸内ジャムズガーデン（代表取締役松嶋匡史氏）の取組が『むらの宝』に選定されました。

「島全体6次産業化」で周防大島に活力を！

松嶋代表は、こだわりのジャム造りを目指して、平成15年、周防大島町へ移住し、手作りジャム専門店「瀬戸内ジャムズガーデン」を起業されました。

周防大島町は、かつて高齢化率日本一となるまで高齢化が進みました。松嶋代表は、このままでは地域の活力や継続性が失われるのではないかとの強い危機感から、利益追求よりも地域社会の継続性追求が重要だと考え「島全体6次産業化」を掲げ、島ぐるみで様々な取組を始められました。具体的には、地元農家68戸からの原料調達（高値買取）や、耕作放棄地を活用した地元農家と競合しない果実の自社栽培、180種にのぼる地域性を活かしたジャム生産による雇用創出、若手のキャリア教育・インターンシップにも取組むなど、アイデアは多岐に渡っています。

このような「瀬戸内ジャムズガーデン」を起点とする「島全体6次産業化」の取組は、島の活性化に向け、着実に実を結びつつあります。



「ディスカバー農山漁村の宝」首相官邸での交流会

「人の繋がり作り」で生まれるチャレンジが地域力

松嶋代表は、これまでの活動を振り返り、「当社は、地域に埋もれた価値に気づき、その地域に根ざした活動を展開してきた。また、ジャムズガーデンを『人の繋がりを作る場』に発展させ、地域内の経済的循環と仕事造りに取り組んできた。近年、島内では若手移住者が増え、地域と連携した起業家も増えている。地元の事業者、生産者、障がい者支援施設、学校などの垣根を越えた連携が生まれている。『人の繋がり作り』が、新たなチャレンジを生み、これらのチャレンジの集合体こそが、『地域力』だと考えている。今後は、全国の先駆者と連携した知識共有の仕組みを構築し取組を発展させるとともに、地域内での連携を進め、地域全体での体験・宿泊事業、新商品開発にも取り組んでいきたい。」と意気込みを語られました。



地域を巻き込んだ6次産業商品



農家との連携・インターンシップへの取組み



株式会社瀬戸内ジャムズガーデン
〒742-2804 山口県大島郡周防大島町日前331-8
TEL: 0820-73-0002
<http://jams-garden.com/>
写真提供: 株式会社瀬戸内ジャムズガーデン

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の選定結果



中国四国農政局では、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として15地区を選定し、管内の農山漁村の活性化に資することを目的にこれを広く発信することとしており、山口県内では、以下の4地区が選定されました。

周防大島町体験交流型観光推進協議会（周防大島町） ～体験型修学旅行で交流人口の増加を目指そう～



平成20年から主に中高生の修学旅行の誘致を開始し、周防大島町の農業・漁業の担い手がホームステイの受入家庭やインストラクターとなり、都市部の生徒達に、みかん栽培やいわし網漁などの体験を通じて、農業・漁業の現状や大切さを実感してもらう場を提供しています。

また、世代を超えた交流が地域住民の元氣や生きがいを生み出し、地域の活性化に繋がっています。

有限会社グリーンハウス（山陽小野田市） ～ネギパワーで職場に笑顔を、地域を笑顔に！～



女性活躍に向けた働きやすい職場環境の整備や、地元高校や県立農業大学校と連携を密にして、採用に係る募集活動を積極的に行うなど若者の働く場づくりを行うとともに、社会見学や職場体験の受入れなど、地域教育にも熱心に取り組んでいます。

また、平成30年11月には山口県内で初となる「ASIAGAP Ver. 2.1」の認証を取得するなど、県内農業者の先駆的な役割も果たしています。

株式会社63Dnet（長門市）

～地域連携した6次産業化による新たな農業～

農業者と地域の異業種事業者が連携して設立した協同組合から、平成27年7月に販売部門を「株式会社63Dnet」として分社化し、地元農産物の卸売販売をスタートさせました。

平成28年には農産物や加工食品の直売店舗「LaLaフラン」、平成29年には「道の駅センザキッチン」内に、地元食材を優先的に使用した商品を販売する「ララベーカーリー」をオープンするなど販売力を強化し、農業者の所得向上や地域雇用の創出に貢献しています。



静食品株式会社（下関市）

～長州ジビエを日本一のジビエブランドに！～

平成25年から「みのりの丘ジビエセンター（下関市）」の指定管理業者を務め、施設で解体したジビエ（鹿、イノシシ）を食肉加工し、ウインナー等加工品を製造・販売しています。

同社は、ジビエのブランド化による販路拡大を目指し、ポスターによる啓発や、地元をはじめ、首都圏で積極的な販売活動を展開してきました。

その結果、ジビエ販売は好調に推移し、平成29年には処理頭数が700頭を超えるなど、ジビエ商品の普及のみならず、地域の鳥獣被害防止対策にも大きく貢献しており、今後の活躍に地域からも厚い期待が寄せられています。



中国四国農政局

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」HP → <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 山口県拠点

〒753-0088 山口市中河原町6-16 山口地方合同庁舎1号館3階

TEL (083)922-5200 FAX(083)934-1120 <農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>